

# 令和7年度病害虫発生予察情報 発生予報第17号(3月)

令和8年3月12日  
発表：福島県病害虫防除所

## 【注意が必要な病害虫】

野菜	■ サツマイモ：サツマイモ基腐病 -③ (令和7年11月7日付け防除情報参考)
	■ トマト：トマト黄化葉巻病 (TYLCV) -③
	■ トマト：トマトキバガ -③ (令和8年3月13日付け防除情報参考)



病害虫防除所  
HPは  
←こちらから

※ 上記の表に記載された病害虫は、下記の①～③に該当します。  
注) ①現状において、注意報レベルの防除を要すると判断された病害虫  
②「1 主な病害虫の発生予報」のうち、予察調査の結果、発生時期が「やや早い」、発生量が「やや多い」と予測された病害虫の中で特に懸念される病害虫  
③「1 主な病害虫の発生予報」以外で調査の結果、今後、県全域的に発生が多く問題になると判断した病害虫



病害虫に関する  
防除対策の  
ページは  
←こちらから

## 1 主な病害虫の発生予報

### (1) 普通作物

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲 (育苗期)	いもち病	全 域	-	平年並	種子更新率は平年並と予想される(±)。	育苗箱施薬を使用する場合は、使用量を遵守するとともに、育苗ハウスの置床に薬剤が飛散しないよう注意する。
	ばか苗病	全 域	-	平年並	種子更新率は平年並と予想される(±)。	罹病苗は、見つけ次第ただちに抜き取り、本田には持ち込まない。発生が多い場合は育苗箱ごと廃棄する。
	苗立枯病 (ピシウム属菌、フザリウム属菌等による立枯病)	全 域	-	平年並	天候予報(仙台管区気象台3月5日発表)によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている(+) 近年の発生は少なく推移している(-)。	ハウス内の急な温度上昇やかん水不足に注意し、適切な温度管理を行う。特に、出芽時の高温や育苗期の低温をさける。
	もみ枯細菌病・苗立枯細菌病	全 域	-	平年並	種子更新率は平年並と予想される(±) 天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている(+) 近年の発生は少なく推移している(-)。	ハウス内の急な温度上昇に注意し、催芽や出芽は28℃以下で行い、育苗期は30℃以上の高温や過湿をさける。 もみ枯細菌病に登録があっても苗立枯細菌病には登録のない薬剤があるので、使用の際は注意する。

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
麦類	赤かび病	全域	平年並	平年並	<p>麦の生育シミュレーションによると出穂期は平年並の予想である(±)。</p> <p>天候予報によると、向こう1か月の降水量は平年並と予想されている(±)。</p> <p>昨年の県全体の発病穂率は平年より低かったが、中通り、会津は平年並であった(±)。</p>	<p>本病は、DONなどのかび毒を産成する恐れがあり規格基準(1.0 mg/kg)を超過した場合は廃棄することがある。</p> <p><u>薬剤防除の適期は、麦類の「開花始め(小麦では出穂後7～10日頃、大麦では出穂後5～7日頃)」であり、1回目の防除は必ずこの時期に実施し、2回目の防除はこの7～10日後に行う。</u></p>

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

## (2) 野菜、花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	全域	-	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	多発すると防除が困難になるので、発生初期から薬剤防除を徹底する。
	灰色かび病	全域	-	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	<p>過湿にならないよう換気を行う。</p> <p>発病果や罹病した果梗、老化葉などはハウス内に放置しない。</p>
	アブラムシ類	全域	-	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	ハダニ類	全域	-	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	<p>低密度時から薬剤防除を実施する。</p> <p>抵抗性の発達が懸念されるので、殺ダニ剤の選択には注意する。</p> <p>カブリダニ製剤を放飼している場合は、天敵に影響の小さい薬剤を選択する。</p>
	コナジラミ類	全域	-	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	アザミウマ類	全域	-	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	発生が多くなると果実被害が生じるので、低密度時から防除を実施する。

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

## 2 発生が懸念される病害虫

水 稲	<p>■ <b>育苗期病害（いもち病（苗いもち）、苗立枯病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、ばか苗病）</b></p> <p>令和7年度の、ばか苗病の発生箱割合は平年より高く、苗立枯病ではピシウム属菌によるムレ苗症状のほか、フザリウム属菌、トリコデルマ属菌による症状が確認されました。病害に罹病した株を本ばに持ち込まないように注意してください。種子消毒剤の選定、防除対策については、水稲病害虫防除対策（4月）（令和7年4月15日発表）を参考にしてください。</p> <p>【水稲病害虫防除対策（4月）】</p> <p><a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/685405.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/685405.pdf</a></p>
サツマイモ	<p>■ <b>サツマイモ基腐病</b></p> <p>昨年の9月に中通り地方でサツマイモ基腐病の発生が確認されています。本病は塊根が収穫時に無病徴であっても、収穫後の貯蔵中に腐敗することがあるため、貯蔵中も定期的に腐敗状況を確認しましょう。次作に向けた対策として、<b>未発生ほ場で生産された種苗の確保</b>や<b>植付前の種苗消毒</b>を実施しましょう。</p> <p>本病の被害様相や防除対策については、令和7年度病害虫防除情報（令和7年度11月7日付け発表）を参照してください。</p> <p><a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/715221.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/715221.pdf</a></p> <p>また、病害虫防除所 HP に掲載している病害虫防除情報「注意喚起 サツマイモ基腐病のまん延防止対策」もご覧ください。</p> <p><a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/satsumaimo-motogusare.html">https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/satsumaimo-motogusare.html</a></p>
トマト	<p>■ <b>トマト黄化葉巻病（TYLCV）</b></p> <p>トマト黄化葉巻病が発生しているほ場においては、コナジラミ類の防除を徹底してください。また、発病が疑われる株については、速やかに抜き取り処理を行ってください。</p> <p>今後定植するほ場においては、苗からの持ち込みを防ぐため、育苗時からコナジラミ類の防除を徹底してください。購入苗の場合は、タバココナジラミの寄生の有無や葉の黄化などを確認し、健全な苗を選びましょう。</p> <p>病害虫防除所 HP でも情報を掲載しているため、下記の URL も参考にしてください。</p> <p>【注意喚起～トマト黄化葉巻病（TYLCV）のまん延防止対策～】</p> <p><a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/544337.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/544337.pdf</a></p> <p>【トマト黄化葉巻病（TYLCV）対策 チラシ】</p> <p><a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648953.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648953.pdf</a></p> <p>【トマト黄化葉巻病（TYLCV）対策 パンフレット】</p> <p><a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648954.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648954.pdf</a></p> <p>■ <b>トマトキバガ</b></p> <p>令和7年12月から令和8年2月にかけて、県内の促成栽培トマトのほ場において、トマトキバガ成虫の発生が確認されています。今後、育苗苗等で被害が発生する可能性があります。ハウス内をよく見回り、本虫の発生や被害がないか十分に注意し、防除を徹底しましょう。（令和8年3月13日付け防除情報参考）</p>
イチゴ	<p>■ <b>すす病</b></p> <p>すす病の発生割合が、平年に比べてやや高い状況となっています。主な被害は、コナジラミ類やアブラムシ類の排泄物が付着した葉や果実等に黒いかび（すす病）が発生し、商品価値の低下を招きます。また、本病の原因となるコナジラミ類やアブラムシ類が多発生した場合には、吸汁加害による株の生育不良も生じることがあるため、低密度のうちから防除を徹底しましょう。</p>